三愛学舎広報誌　第8号　（2024年１月発行）

〒028-5133
岩手県二戸郡一戸町中山字軽井沢 49-33
電話:0195-35-2231　　FAX:0195-35-2781　〈三愛学舎ホームページ http://www.sanaigakusha.net〉

地域社会にある三愛学舎

私たちが何気なく口にしている言葉に「地域」がある。日常の生活圏域の土地であり、「われ住む所」である。

地域性はその地域だけにとどまらず、他の地域にも拡がっていく。

奥中山には奥中山なりの地域性がある。奥中山の商店街で、郵便局で、奥中山高原駅で、そこで生まれる様々なドラマを地域の皆さんと共有している。

地域に適した産物をつくりたいと、県の農産指導者の教えを受け、原木シイタケを栽培することになった。木漏れ日が適度に差し込む林の中だ。

そのシイタケ栽培地の環境作りを専攻科の有志たちで行った。風を避けるための囲い作り、直射日光を防ぐための日よけネット張りなどの作業である。カリキュラムに組まれていない仕事である。

ある日、専攻科のＤくんが小走りで林の中に入っていった。シイタケ栽培のところである。

Ｄくんはシイタケ栽培の環境作りにも参加したメンバーの一人である。秋の季節、日中の寒暖差が激しくシイタケの収穫時期である。今年の春頃、私たちの仲間校である群馬県の特別支援学校「若葉高等学園」から取れたてのイチゴが送られてきた。学園の生徒達が温室の中で栽培しているという。ぷ～んと甘酸っぱい芳香が校内に漂った。店で買うイチゴとはまるでちがう。皆で分かち合っておいしく食べた。今度は私たちの手で栽培した乾燥シイタケを送ろうということになった。登校してまず、ざるに並べたシイタケを戸外に出して天日干しにする。夕方、夜露に当たらないようにビニールハウスに運び入れる。

昼休みには、掃除当番を終えたらすぐにシイタケの収穫に走るというのがＤくんの日課である。あと２週間もすればシイタケも眠りに就くだろう。それまでの頑張りである。

地域性を活かし、地域在住の指導者から教えを受けて産物を作る。その産物は他の地域との交流まで拡がる。交流の和を拡げることにより様々な問題意識が生まれてくる。そこから新しいカリキュラムが思い浮かぶかもしれない。また、地域に関わる社会問題、政治問題の課題も出てくるかもしれない。

＜2023.11.1　記＞　　（学校法人 理事長　校長　澤谷常清）

広報誌第８号では、地域で日々本校を支えてくださっている方々から「本校への想いや期待」についてお聞きしました。

新校舎で初めての「さんあいカナン祭」開催

我が家と三愛学舎とのつながり

２０１４年度卒業生保護者　川又栄子

我が家と三愛学舎は、25 年くらい前に長女が通うピアノ教室のおさらい会の会場として校舎を使わせて頂いたのが始まりになります。その後、おさらい会の度に 20 年以上使わせていただきました。

それに、次女のミニバスの夏の合宿などにも校舎を使わせて頂いた事もありました。

それから長男が特別支援学級の３年生の時、野焼きで作る作品を三愛学舎で焼かせて頂いた時がありました。待っている間、上田初子先生がサンマを用意してくれて、それを焼いて食べた懐かしい思い出もあります。そして、長男は三愛学舎に５年間生徒として通わせて頂くことになりました。

これまで、三愛学舎は地域の活動などに色々と協力してこられました。そして、この度新校舎になり、コロナ禍も治まりつつある中で、再び、三愛学舎に行く機会ができました。今度のピアノ教室のおさらい会です。５年ぶり位で三愛学舎で行われる事になっています。

ピアノ教室おさらい会
（新校舎　講堂）

このように、我が家と三愛学舎の色々な縁の深さを改めて感じる事が出来ました。これからも、引き続き、地域の活動に協力してもらえたら助かります。

私にとっての三愛学舎

ファミリーマート一戸奥中山店　店長　坂本育美

私が初めて三愛学舎を訪れたのは、当時、小学生の息子がスポ少でバスケをやっていてバスケの合宿で行ったのが最初でした。10 年くらい前になるので、まだ学校は旧校舎の時でしたが、子供たちが楽しそうに合宿をしていたのを今でも憶えています。それ以降は、私が直接三愛学舎を訪れることはなくなりましたが、地域にあるコンビニで働いているということで、三愛学舎の生徒さん、職員の方々が買い物にきていただいて、皆さんと接する機会ができてとても嬉しく思っていました。授業の一環として買い物に来る生徒さん達は、とても素直でいい子達ばかりで、「今日は何作るんだよ」とか教えてくれる生徒さんもいて、本当に可愛くていい子達だなという印象がとても強いです。普段からのびのびといい学校生活を送っているんだなと思いました。

新校舎になったと聞きまして、一度は訪れてみたい思いもありますが、機会がなかなかなくて残念です。今後もお店に買い物に来る生徒さん達を見守りながら、三愛学舎の素晴らしい未来をお祈りしています。

奥中山と共に

奥中山中学校 PTA 会長　坂本亮太

奥中山に生まれ育って 40 年という歳月が過ぎました。

三愛学舎を知ったのは、中学生の時だったと記憶しています。部活のランニングコースが三愛学舎の脇道を通る林道で先生や先輩に見つからない絶好の休憩ポイントでした。

当時は、校舎や生徒を見かけることはあっても、交流も少なくどこか遠い存在だったという思いがあります。それでも、特別な存在ではなく、奥中山にある学校のひとつという当たり前の存在として過ごしてきたように感じています。

私にとって、三愛学舎を身近に感じるようになったのは、大人になってから。

親となり、子供を通して知り合った方々に三愛学舎の教職員が多くいらっしゃいました。今まで漠然としたイメージしかなかった学校の様子を改めて知るにつれて、奥中山に根付いている事を実感しました。

数年前からご縁があり、パイプハウスの修繕の為に学校にお邪魔した際には、生徒の皆さんが作業している様子を伺うこともできました。

また、冬期間にパイプハウスでアスパラガスとタラノメを栽培しているので、暖房の為に使用している薪ストーブの燃料として生徒の皆さんが作成してくれた紙薪を利用しています。生徒の皆さんが一生懸命作成し、丁寧に配達してくれる紙薪は、火力も火持ちも良くとても重宝しています。ご縁が続く限りお付き合いしていきたいと思います。

これからも、奥中山と共にある学校として、地域に根差した取り組みを期待しています。

紙薪納品時の様子

三愛学舎に見る未来のＳＤＧｓ

一戸町立奥中山中学校　教諭　坂本忠信

三愛学舎の存在を知るようになったのは、私が金田一中学校にいる時で、もう 20 年も前のことだと思います。それから現在に至るまで５人の生徒が三愛学舎にお世話になり、また数年前まで勤めておられた早坂先生とは地域の合唱活動で長年にわたりお世話になりました。私自身最後の勤務地が奥中山になるとは想像もしておりませんでした。

この前、テレ朝の『一泊(わんぱく)家族』という番組を見ました。和歌山県南部の秘境にある集落色川で築 150 年の古民家に移住し暮らすファミリーのお話でした。

中でもお母さんは東京大学大学院修了というから驚きでした。食材は自給自足。お肉はシカ肉を猟師の方からもらって食べるそう。料理は薪で賄いガス代は０円、テレビ、エアコンもなく電気はソーラーパネルで光熱費たった千円、美しい沢水を使うので水道代も０円。衣類は“物々交換”システムがあるのだそう。

肝心の収入源は、お父さんの鶏卵だということです。「なるべく近場の資源で小さく生きるというのが、結果的に楽しくもあり幸せなんです。」と母は語る。

私は、「これだ」と思いました。と同時に学舎の三愛の一つ「土を愛す」がよぎったのです。贅沢をせず地産地消の質素な生活こそが、今の社会に必要なのではと。

改めて、三愛学舎の教育に期待したいと思います。

奥中卒業生（現本科１年生）

三愛学舎に想う

一戸町立奥中山小学校　副校長　岩井澤通代

二十年近く特別支援教育に携わってきた私は、奥中山小学校での勤務が決まった時、心が躍動したものでした。それは、この地域には「生活・教育・労働」が体系化された施設があり、特別支援教育や障害者福祉への理解が深いからです。「共生社会の実現」をしている地域であると感じています。

三愛学舎は、県下に一校しかない私立の特別支援学校であり、貴重な存在だと言えます。2023 年７月に新校舎が完成したこともあり、ぜひ学校を見学したいと思っていました。そして、念願が叶って、一戸町内小中学校の特別支援教育部会で見学することができました。

学校の玄関を入ると、「三愛ギャラリー」が私たちを迎えてくれました。一般的に、学校建築は閉鎖的で画一的な雰囲気ではありますが、新校舎は、木造建築の温もり、高い窓から降り注ぐ光のシャワーと心地よい風が吹き抜けています。この開放的な空間に集う生徒と教職員の喜びが共有されており、校訓にある「生きる喜び」を具現化する素晴らしい学校に、私たちも幸せな瞬間を感じることができました。

教育課程の説明では、本科が毎日の昼食作りをしていること、専科が卒業後の就労生活について学びを深めるために職場実習をしていること等を聞きました。また、三愛学舎の脈々と続く教育理念に支えられながら、中学校卒業後から成人期移行の重要な時期に、生きる喜びを体感しながら学びを深めていることについても教えていただきました。

さんあいギャラリー

新校舎に守られ、生徒と教職員が共に生き方を考え、学び合う三愛学舎。私は、この三愛精神を広く発信していただきたいと思っています。そして、各地域において、共生社会の実現に向けた活発な取組が推進することを願っています。

三愛学舎へ期待すること

岩手県立盛岡みたけ支援学校奥中山校　教諭　髙柳千華子

盛岡みたけ支援学校奥中山校は今年度創立 42 年を迎えました。これまで地域の方々の暖かいご支援をいただいてまいりました。近隣の奥中山みどりの森こども園・奥中山小学校・奥中山中学校との交流を重ねるにつれ、両校の児童生徒たちは、「手伝う」「手伝ってもらう」から、自然に「側にいる」そして共に学ぶことができるようになっています。私は、一人一人の成長が見られることが本当に嬉しく思っています。奥中山は、ほっこり暖かく素敵なところだと思います。

本校卒業生の多くが、三愛学舎へ進学し学んでおります。三愛精神を基にこれからも地域や子どもたち同士の繋がりを大切にしながら、三愛学舎での学びを深めていってほしいと願っています。そして、この穏やかで暖かい日常の中、生徒の皆さんには自分の良さや強みを知り、将来について考える力や相談する力を身に付け、それぞれの青春を謳歌してほしいと思います。

中学部　在籍時(現本科２年生)

私は、この地で特別支援教育を推進しておられる三愛学舎の皆様へ感謝をしつつ、生徒の皆さんの素晴らしい未来を想像し、生きがいをもって生活する姿をこれからも楽しみにしております。

～奥中山にあって～

駅前の花壇整備

みたけ夏まつりでのステージ出演

奥中山高原ウォーキング

奥中山地区文化祭へのパネル展示

本科３年　卒業展
(奥中山地区センター)

スキー教室
(奥中山高原スキー場)

これからのこと

副校長　岩崎崇

三愛学舎が開校し46年が経ち、新校舎での学びも1年を経過しました。この間、恵まれた自然、地域の方々の支えの中で豊かな情操が育まれてきました。この魅力を活かして、これから目指すべき姿、将来像を教職員間で検討してきました。話し合う中で理念、使命を改めて意識し、強み、大切にしていること、なぜここに三愛学舎があるのかという存在意義を再確認することができ、共感、共有されました。約半年間かけて対話し、三愛学舎のコンセプトが決定しました。

こころにまき続ける、“希望の種”を

・私たち三愛学舎は、恵まれた自然・環境、ゆったりとした時間のなかで、食・表現・対話を大切にし、喜びをわかち合い、希望をもって生きる人を育てます。

・共に支え合いながら学び、人のこころに種をまき、人のこころをつなぎ、人のこころを動かし、互いが賜物と認め活かしあうことで、未来の可能性を広げます。

コンセプトを基にどんなことをやってみたいか、教職員間で語り合いました。「奥中山の商店街で芸術作品を展示する街中アートを行いたい」「地域の方々にも三愛学舎の調理室、芸術棟を解放し、カルチャースクールを開催したい」「外国人技能実習生を招待し、その国の料理を教えてもらいたい」など、たくさんのアイデアが出されました。

これまでも近隣のお店で買い物をしたり、駅や地域の花壇に園芸科で育てた花を植えたり、日常的に地域の方々と触れ合う機会は多いと思いますが、コロナ禍、業務改善を理由に規模を縮小し、内部で完結することが多くなり、発想の枠が狭くなっていたと思います。今年度、久しぶりに文化祭（さんあいカナン祭）を通常開催することができました。卒業生がたくさん来校し、新校舎を見てもらう機会になり、お互いの近況を報告し合いました。PTA企画にはOB・OGの協力もいただき、保護者同士の交流も深めることができました。また、地域のピアノ教室の発表会を再開することができました。会場となった講堂は、天井が高く、音が良く響き最高の場所だと思います。知ってもらうこと、交流することで、自然と元気になり、また明日も頑張ろうという活力になりました。私たち三愛学舎が、外部に出向くこと、外部の方々を呼び込むこと、活動を発信することで、多様な価値観の交流が生まれ、未来の可能性を広げることにつながると思います。

コンセプトにある、“希望の種”をまくのは、三愛学舎の教育活動に賛同していただいている、みなさんだと思います。今回の広報誌をご覧になり、「三愛学舎に行ってみたい」「一緒にコラボレーションをしたい」という希望がありましたら、ぜひご連絡ください。これからも三愛学舎をよろしくお願いいたします。

2021 年度、2022 年度卒業生　合同同窓会

７月 15 日（土）に、2021 年度、2022 年度卒業生合同同窓会を行いました。昨年度は新校舎の建て替えに伴い、開催を見送ったため、２年ぶりの開催となりました。

2021 年度卒業生の多くは初めて新校舎に入る方も多く、新しくなった校舎に最初は戸惑いもあったようですが、たくさんの保護者の皆さんも交え、久しぶりの仲間や教職員との再会に、当時の思い出話や近況を語り合うなど大いに盛り上がりました。

みずほ教育福祉財団贈呈式

９月７日（木）、「みずほ教育福祉財団」様より助成金の贈呈式が本校で行われました。

同財団の教育事業部長 真鍋公典 様が来校され、本科３年生の中村夢月花さんが代表として目録をいただきました。今年度の助成金では、ピザ窯、スマート液晶視力計、作業用ミキサー等を購入し、学習活動に活用させていただいております。また、これまでもピアノ、ハンドベルなどの楽器や除雪機など教育活動や、教育環境を整備するための機器備品等を贈呈いただいております。

長年にわたり、あたたかいご支援をいただきまして、心より感謝申し上げます。

薪ストーブの入れ替えを行いました。

震災後に本校の談話コーナーに設置され、震災復興のシンボルとして、また、生徒や教職員の憩いの場となっていた薪ストーブですが、老朽化のため、今秋入れ替えました。作業科で準備した薪を使用し、今年も厳しい奥中山の冬を乗り越えたいと思います。

編集後記

今年度の広報誌は『地域にある学校として』というテーマを掲げ、日頃本校を支えて頂いている地域の皆様にご寄稿をお願い致しました。ご多忙のところ快くご協力を頂き感謝致します。

カナンの園の歩みはここ奥中山の地で始まりました。これまでの歴史を受け継ぎつつ、次世代を担う自分達が今後も積極的に地域との交流を図り、学校としてできる地域貢献についても探っていきたいと考えています。今後ともよろしくお願い致します。（花下浩）